

日時：2019年10月26日（土）13:15～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 311 室

内容：

- 講演「発達に応じたコミュニケーション支援」九州保健福祉大学 倉井成子
 - 『コミュニケーションパートナーハンドブック』の内容より事例に基づく講演・グループディスカッションなど
 - 千葉県で開催された研修会の報告
千葉県言語聴覚士会・旭発達支援ネットワークプロジェクト
-



講演では、初めに、コミュニケーションパートナーとは言語発達障害児者に関わる全ての人のことであり、コミュニケーションパートナーが働きかけを工夫することで、コミュニケーションが取りやすく、広がるという説明がありました。次に、発達に応じたコミュニケーション支援のために、言語理解を①ことばがまだ獲得されていない段階、②単語が分かるようになった段階、③2語文が分かるようになった段階、④3語文以上が分かるようになった段階、という4つの段階に分けて考え、それぞれの段階での目標と関わり方が紹介されました。子どもの言語発達段階を知り、相応のコミュニケーション力を理解することが適切な支援につながるとのことでした。また、問題と思われるような子どもの行動も、その子どもにとってのコミュニケーション手段と捉え、行動の理由を考えた上でより良い手段を指導することが大切とのことでした。

コミュニケーション場面別の講演では、日常の支援の中で困った場面において、働きかけを工夫したことでコミュニケーションがとりやすくなったり、広がった例が紹介されました。支援を考える際には「本人の視点で考える」ことが大切であり、言語発達段階やコ

コミュニケーション力に合わせて支援することが必要であるという具体的な例が示されました。また、講演後にはその事例を基に、グループ毎に自分たちが実際に経験した事例について意見交換を行いました。

最後に、地域で開催したコミュニケーションパートナー育成支援セミナーの報告がありました。今後は今回の参加者を中心にこのセミナーが様々な地域で開催され、コミュニケーションパートナーを育て育成する輪が広がっていくと良いとのことでした。



【参加者の声】

- 通級の幼児とかかわっているとき、不安なり疑問なりぼんやりかかえていて、何か解決に向かう方向はないかと今回に参加しました。基本にたちもどり、当事者の気持ちに寄り添って考えていく、とてもいい機会となりました。
- 児童支援機関、ご家族と様々な工夫があり、成育の中で一人一人コミュニケーションを獲得していくのだと思った。成人の支援でもその部分は丁寧に聞きとりしたいと改めて思う。“本人の視点”を大事に考えていきたい。
- 今回の様な、コミュニケーションパートナーや、コミュニケーションの基礎について学べる機会が地域でも開催でき、支援の輪が地元にも広がっていくと良いなど実感しました。